

令和4年度 高校生の作文コンクール



幸せを創る職業



静岡県立浜松工業高等学校 建築科 1年 あんま なつき
安間 菜月

朝起きて、ご飯を食べ、学校に行き、授業を受け、帰り、お風呂に入り、寝る。人によって過ごす一日は違っていても、そこにあるものはいつだって「空間」だ。私たちはいつだって空間の中に生きているのだ。

家の近くに工業高校があった。進路を気にするようになった頃、私の父も兄も通っていたこの高校に興味を持ち始めた。最初は「家が近いから」という理由だったが、兄からの話や実際に高校の雰囲気近くで見ていると、次第にこの高校に入学したいと思うようになっていた。当時インテリアに興味があった私は、抽象的ではあるが、内装に携わる仕事がしたいと思うようになっていった。その時ぐらいいから同時に「空間」に対しても興味を沸き始めていた。浜工について調べていくうちに建築科があることを知った。資格も沢山取れるらしい。ただ、自分の夢が抽象的であったが故に高校三年間を専門分野に振り切ってしまうのか。というモヤモヤがずっと心の中にあって、中々一歩を踏み出せなかった。そんな私の背中を押してくれたのは、一つの記事だった。「誰かに楽しいを沢山届けるための遊び心満載の空間」。ある会社のオフィス移転の記事だったが、その記事を見て私の抽象的だった気持ちが「誰かの為にその人が一生を楽しく暮らせるような空間を作りたい。」という気持ちになった。建築科を目指そうと心に決めた瞬間だった。

誰かの一生を決める仕事に就く。「空間を作り上げる。」ということはつまりそういうことにな

る。それが家や自分の部屋だったら尚更だ。自分が過ごす空間は何よりも何処よりも安心ができて快適に過ごせる場所ではなくてはならない。建築の仕事に就くということは、誰かの人生を任されるという事に匹敵するだろう。私はあの日読んだ記事にあったオフィスのように誰かにワクワク感を与えられ、笑顔を作れるような空間を作りたい。そしてその空間が楽しい空間であれば、そこでどんなことがあろうと必ず記憶に結びついていく。沢山の人が訪れるような公共施設から、一家族の一軒家。そして自分が作り上げた空間が笑顔に変わる瞬間をこの目で見たい。小さな一つの幸せを沢山創りたい。建築科に入ったからこそ自分の夢を実現させたい。人生を担う職を目指すからこそ、毎日、今日を全力で頑張る。そしてあの日の決断に後悔が残らないように、自分の行動に自信

をもってこれからの毎日を過ごしていきたいと思う。将来の自分が誰かの幸せを創り、そこには記憶する空間があり、自分自身も笑顔でありますように。

